

令和5年度 京都大学一般選抜 出題意図等

国語（理系）

- ・「出題意図等」とは、出題意図または標準的な解答例のことです。
- ・入学試験問題の満点や配点については、試験問題に記載のとおりです。
- ・各学部における個別学力検査の配点については、一般選抜学生募集要項に記載のとおりです。
- ・標準的な解答例については、ここに示す表記に限るものではありません。
- ・「出題意図等」についての質問および問い合わせには対応いたしません。

理系

出題意図（問題一全体）

論説文における表現と議論の展開を適切に理解する力を問う。また論じられている内容や、主張と根拠の関係について、明解で誤解を引き起こさない適切な表現によって述べる力を問う。

出題意図（個別問題）

- 問一： 演劇に関する筆者の考えを理解し、ドラマが「為されるもの」という表現の内容を踏まえて、適切かつ明確に表現することを求める。
- 問二： 映画と演劇の違いに関する筆者の考えを理解した上で、「この呼吸」が映画では「不可能」だと筆者が考える理由について、明確に説明することを求める。
- 問三： 「ものまね」を見せられる側と見せる側の違いについての筆者の考えを把握し、傍線部に示された筆者の主張の根拠を明確に説明することを求める。
- 問四： 筆者が芸術のいとなみにおいて皆が「孤独におちいつている」とする考えを、本文全体を踏まえて正確に理解して、十全に説明することを求める。

出題意図（問題二全体）

問題文は、当時同じ療養所にいた筆者福永武彦が、結核で亡くなった小山わか子を追悼したものである。小山の歌集を読むことを通じて筆者が感じたこと、考えたことを正確に読み取った上で、その内容を設問に応じて的確に説明する力を問う。

出題意図（個別問題）

- 問一： 「忘却が死者の最大の敵」と言えるのはなぜなのか、生者における死者の記憶のありようを本文から読み取り、的確に説明する能力を問う。
- 問二： 「自らの問題の不安には眼をつぶり得ない」ことが、「他者の問題に不安を見ようとしない」こととどう結びつくのか、その関係について説明する能力を問う。
- 問三： 「他者をも自己のうちに持つこと」が、生者にとって「自己を希薄ならしめること」にならないとはどういうことかを、後段の小山わか子の歌集を読んだ筆者の所感と関連させ、説明する能力を問う。

出題意図（問題三全体）

問題文は松岡行義『後松日記』の一節である。江戸時代の標準的なレベルの論説的文章を題材に、古典文法や古語の知識に基づいて正確に現代語訳する力、および本文の論旨を把握

して的確に説明する力を問う。

出題意図（個別問題）

問一 傍線部の意味するところを理解した上で、本文中で展開される筆者の主張を正確に読み解き、適切な表現で説明することを求める。

問二 基本的な古語と古典文法についての適切な理解に基づき、指示語や比喻の意味内容を正確に把握し、的確な現代語に置き換えることを求める。

問三 本文全体の論理展開を理解した上で、古語と古典文法の正確な理解に基づき、傍線部の内容を分かりやすく説明することを求める。